

3・14つながる春闘札幌集会

3月14日の全国統一行動で、札幌では「つながる春闘札幌集会」など終日行動が展開されました。昼休み時間帯にはリレートークと宣伝行動をおこない、夜の集会では「ストライキを背景にベースアップをかちとった」（全医労）、「白タク許すな！ライドシェア反対」（自交総連）、「敬老バスの存続とJRやタクシーへの利用拡大（年金者組合）など各労組のとりくみを交流し、建交労からはアルファ分会（家庭教師）のたたかいやクロネコヤマトの大量首切りとのたたかいなどを報告しました。

北海道鉄道本部の14人が参加

この日の統一行動に北海道鉄道本部は札幌圏7支部から14名の仲間が集まり、全国の仲間たちのたたかいに呼応した行動を展開しました。朝早くから組合事務所会議室に集合し、春闘におけるJR北海道との団体交渉の経過報告のあと、午後からの宣伝行動で使用する建交労チラシを折り込んだポケットティッシュを準備して札幌駅南口広場に移動しました。昼休みの時間帯には大幅賃上げをめざす「ローカルビッグアクションⅢ」に参加し、昼食後には独自行動としてチラシ入りポケットティッシュのポスティング等をおこない用意した宣伝物は全て配布。夜の集会にも参加してこの日の行動を終えました。

鉄道本部が国交省交渉

JR北海道への支援で意見交換

建交労3・7中央行動に北海道鉄道本部から竹田委員長と最上書記長が参加し、午後からおこなわれた全国鉄道本部の国土交通省交渉で、JR北海道への恒久的な支援につながる法整備と北海道新幹線の札幌延伸や札幌駅周辺での商業施設の建設が遅れることによるグループ全体の収益ダウンへの対策を柱に意見交換をおこないました。昨年秋におこなわれた交渉における「北の鉄道を守るためにJR北海道グループで収益を増やしていく」という一致点をもとに「人材を活用し関連事業の拡大による収入を伸ばしていくこと」や「国からの支援金を、計画されている設備投資に活用することで発生する資金を有効的に運用し、新入社員の受け入れや早期退職者の減少につながる処遇改善に活用可能とすること」「商業施設からの収益が見込めないことへの対応」など、考え方を深め合いました。今回の交渉で、北海道民の交通権や鉄道を守りたいという思いの一致は受け止められましたが、北海道鉄道本部はこれからのJR北海道への支援について一層の意見交換を重ねて、安全・安心な公共鉄道を末永く存続させることをめざしたいと考えています。

道本部労災職業病部会が北海道労働局に要求書提出

道本部労災職業病部会は3月12日に、北海道労働局長あての「労災職業病にかかわる要求書」を提出しました。要求書では、①振動障害の防止、②トンネル工事におけるじん肺の予防対策およびアスベストの予防対策、③労災職業病の認定業務、④じん肺およびアスベスト疾患、⑤振動障害の「適正給付管理」、⑥振動障害被災者の訓練・社会復帰対策、⑦労働行政の体制強化についての要求をまとめています。